

(別表第1の3)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20 年 4 月 2 日

【評価実施概要】

事業所番号	第3870105610号		
法人名	株式会社アクト企画		
事業所名	グループホーム 我が家		
所在地	松山市鷹子町705-2 (電話) 089-960-1200		
管理者	中山多希史		
評価機関名	愛媛県社会福祉協議会 利用者支援班		
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8-15		
訪問調査日	平成 20 年 2 月 21 日	評価確定日	平成 20 年 4 月 2 日

【情報提供票より】 (平成 20 年 1 月 23 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 3 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 15 人, 非常勤 3 人, 常勤換算	14.9 人

(2) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000 円	その他の経費(月額)	9,800 円	
敷金	有()円 ○ 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円 ○ 無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,100 円		

(3) 利用者の概要 (平成 20 年 1 月 23 日事業所記入)

利用者人数	18 名	男性 6 名	女性 12 名
要介護 1	7 名	要介護 2	5 名
要介護 3	5 名	要介護 4	名
要介護 5	1 名	要支援 2	名
年齢	平均 85 歳	最低 68 歳	最高 97 歳

(4) 他に事業所として指定等を受けている事業及び加算

指定	なし	指定介護予防認知症対応型共同生活介護
指定	なし	指定認知症対応型通所介護
届出	なし	短期利用型共同生活介護
加算	あり	医療連携体制加算

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

徒歩数分の所に地域住民が日常的に利用している公民館や老人福祉センターがある住宅地にホームはあり、福祉ネットワークが充実し、活動が活発な地域である。開設後まもなく満2年になり、利用者と職員のほとんどは開設当初からの関わりで馴染みの関係ができ、安定した笑顔のある生活を送っている。利用者はおしゃべりが好きで、お客様に来ていただけることが好きである。利用者と職員が毎日一緒に掃除でホーム内は清潔に保たれている。協力医療機関による往診が毎週あり、必要に応じて利用者の主治医と連携をとる体制がつけられていることは利

【質向上への取組状況】

▼ 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)

ホーム便りはプライバシーを考慮して「本人さんだより」として第一回を発行した。地域とのつきあいは徐々に増えてきている。研修会への参加は一部の者で、まだ全職員には実施されていない。介護計画は、計画的かつ継続的に取り組むために計画シートを利用し、職員間で共通理解し改善に向けた取り組みを期待する。

▼ 今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)

自己評価は話し合いの場を持ち、全職員で取り組み、管理者がまとめている。職員は、評価をすることで取り組めていること・いないことが明確になり、日々のケアを振り返ることができると自己評価の意義を理解している。

▼ 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)

会議は3か月に一度開催し、ホームの現状、取り組み内容、外部評価結果や前回の会議で検討・懸案になった事項の経過などを報告し、話し合っている。サービスの質の向上に向けて前向きに取り組む姿勢に、メンバーからも具体的な改善策の提案や地域の情報提供が積極的にある。それにより、地域との連携が深まっている。

▼ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)

面会時には職員から積極的に声かけし、要望や意見を聞くよう努めている。家族は運営推進会議でも意見が言っている。出された意見や要望には速やかに対応している。普段から積極的に意見をいただくという姿勢を持つことで「苦情」や「クレーム」には至っていない。平成20年4月には家族と個別面談する計画もある。

▼ 日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)

ホームは地域行事への参加や散歩時の挨拶など、交流を心がけている。地域の情報を積極的に収集し、利用者の地域での多様な活動の確保に努め、利用者が地域住民と近所づきあいでできる関係づくりに取り組んでいる。また、運営推進会議でホームが地域とどのように関わっていけるかを話し合い、ホームと地域住民とが支え合える関係を築いていきたいと考えている。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
 - 各自己評価項目について、「取り組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
 - 「取り組みの事実」は必ず記入すること。
- (注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 グループホーム 我が家

(ユニット名) ユニット1

記入者(管理者)
氏名 中山 多希史

評価完了日 平成 19 年 月 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) ホームの中でも地域の中でもその人らしく暮らしていけるように理念を全職員で作った。 (外部評価) 今までの運営理念の他に、全職員で「自分ならどういうケアをしてもらいたいか」を話し合い、五つのケア理念を新たに作っている。それはケアにあたっての具体的な行動目標であり心構えになっている。しかし、地域密着型サービスとしての役割を目指した内容は含まれていない。	※	ホームは利用者が地域の中で生活者としての暮らしを実感できるつきあいを目指しているため、利用者に関わるチームの共有を図るため、今ある理念を実践する中で、さらに地域密着型サービスとしての役割を目指した内容を盛り込むことを期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 理念に通じることがケアプランにもなっており、日々取り組んでいる。 (外部評価) 五つのケア理念は、利用者と職員の2年間の生活の中で、何を大切にしていけるかを全職員で話し合い、平成19年10月に作ったものである。職員間で共有は図られており、心理を理解するケアサービスを共通の目標とし、日々のケアに取り組んでいる。		
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	(自己評価) 理念が浸透するように家族には説明し、地域の方には運営推進会議にて説明している。	※	運営推進会議では民生委員さんなどには説明はしているが、地域の人々にまでは説明できていないので、今後地域の方にも知ってもらえるように交流していきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 近所を散歩し挨拶などして、顔なじみになるようしている。玄関のベンチで日光浴する際も、近所の人が通ったら挨拶するように職員みんなで心掛けている。		今は挨拶での付き合いだけなので、今後は気軽に立ち寄ってもらったり日常的な付き合いができるように取り組んでいきたい。
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 老人会や行事等積極的に参加し地域の一員となれるようにしている。 (外部評価) 町内会に加入し、地域行事にも参加している。散歩の際、職員は積極的に挨拶するよう心がけ、地域との交流を大切にしている。また、交流の機会として囲碁や大正琴など利用者の趣味を通してのつきあい、運営推進会議を住民が行き慣れている公民館で開催することや利用者と共に見守り隊に参加するなど、民生委員や町内会長と相談しながら実施したいと考えている。	※	さらに地域活動などに積極的に参加し、利用者の皆さんが地域の一員だと実感できるように取り組んでいきたい。
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議などでもでているが地域の独居であるお年寄りとの交流を積極的にしてみようかとの意見が出ている。		まずは、地域の高齢者と話し合える環境を整えていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 職員全体で項目をチェックし、グループホームに求められているものを再確認している。 (外部評価) 自己評価は、全職員で話し合いの場を持ち、管理者がまとめている。職員は日々のケアを振り返ることができる。評価の意義を理解している。前回の改善については、ホーム便りの定期化や地域とのつきあいは取り組んできているが、研修会への参加などへの取り組みは進んでいない。	※	今後は評価を活かして、取り組みを具体的にしていきたい。 計画的かつ継続的に取り組むためにも改善計画シートを利用して改善計画を立て、職員間で共通理解として改善に向けて取り組むことを期待する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議では現状報告などになりがちではあるが、そこで出た意見も参考にさせていただいている。ボランティアの受入れをもっと積極的にしてはどうかなどの意見が出ている。 (外部評価) 会議は3か月に一回、ホームの現状、取り組み内容、外部評価結果や前回の会議での検討・懸案事項の経過などを報告し、話し合われている。改善に向けての前向きな取り組みにメンバーからも具体的な改善策の提案や地域の情報提供等がある。次回は「ホームが地域にどのように関わっていけるか」を話し合いたいと考えている。	※	地域のお年寄りで組織されている踊りや民謡などを受入れる予定で、そこからのつながりを大事にして発展させていこうと考えている。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 介護サービス事業者実務担当者連絡会や地域包括支援センターが主催する会などに参加している。 (外部評価) 地域包括支援センター主催の会などに参加する中で、市担当者と話しやすい関係づくりができてきている。また、運営推進会議以外でも民生委員がホームに訪問することが増えてきており、現状を知ってもらえる機会が多く持っている。		
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在制度利用者はいないが今後予測されるため、皆で学ぶ機会を持ちたい。		
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) どういことが虐待なのかということを話し合っている。心理的な虐待などもあるということを理解している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時に説明し、法改正による料金改正などのときにも詳しく説明し、同意を得ている。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 要望や意見は、管理者や職員が聞けるようにしており、できる限り実現するようにしている。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 暮らしぶりなどは、本人さんだよりということで先月請求書と一緒に送付する試みをしている。今後続けられるようにしていきたい。健康状態などは状況により随時連絡している。 (外部評価) 面会時に利用者の暮らしぶりを報告し、健康状態は受診時に口頭や書類にまとめて情報提供している。変化や問題が起きた時は電話で状況を報告し、連携を図っている。金銭管理は1か月に1回領収書を添えて収支報告している。先月試みに写真入りの「本人さんだより」を送付し、早速に家族より喜びの電話があったので、定着させたいと考えている。		
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族等と関係を築いていくことで意見、不満、苦情を管理者や職員に伝えやすくなるよう取り組んでいる。言いやすい雰囲気をつくるよう心掛けている。 (外部評価) 面会時に職員から声かけし、要望などを積極的に聞くように努めている。また、利用者や家族は運営推進会議でも意見や要望を言っており、その意見は運営に反映させている。重要事項説明書に、ホームの苦情相談窓口や公的窓口について電話番号を記載して紹介している。普段から積極的に意見をいただくという姿勢を持つことで「苦情」や「クレーム」はない。		今後、家族会の設置をし、家族同士が交流できる場も作っていきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月ミーティングを行い、意見などを聞く機会を設けそれを反映させるようにしている。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 外出などの要望にそえるために日中に勤務者が多くなるようにしている。		
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 利用者が馴染みの関係になれるよう異動などは必要最小限にしている。ユニット間の異動もユニット同士の交流を積極的にすることによって、どちらのユニットにも顔馴染の職員がいるように取り組んでいる。 (外部評価) 全職員が全利用者をケアしているという意識づくりと、利用者が全職員と顔なじみの関係を築くことで、夜勤帯や相互応援が必要な時に利用者にスムーズな支援ができるように、ユニット間の職員の異動を必要に応じて行っている。また、それによりユニット間の利用者同士の個人的なつきあひも増えている。		
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 必要とおもわれる研修を受けられるよう取り組んでいるが、全職員が受けられているわけではない。 (外部評価) グループホーム連絡協議会や市主催の会に所属しており、管理者とリーダーは会議に参加しているが、職員は参加していない。管理者より研修会開催の情報提供があるが、研修会への参加は職員の自主性によるところが大きく、外部研修の受講率が高いとはいえない。	※	全職員が個々に必要な研修を受けられるよう取り組んでいきたい。 職員は、利用者の心理を理解した支援をしたいと自分の学ぶべき目標を明確にもっており、自己研鑽に前向きである。職員の経験や理解度に応じた研修機会を、業務に支障がないよう年間計画を立て、職員の育成について運営者側から働きかけることを期待する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 地域包括支援センターが開催している地域ケアネットなどを通じて交流するよう取り組んでいる。 (外部評価) 地域包括支援センターが開催している地域ケアネットに参加し、管理者やリーダーは近隣の他ホームと交流の機会を持っている。その中で、相互に大正琴を趣味にしている利用者がいることから、合同発表会の開催が検討されている。これを契機に、同業者間の交流のあり方に広がりがあり、地域のサービス水準の向上が期待できる。		
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 職員のストレスなどを把握するよう努めている。また、環境を整えている。		
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるよう努めている	(自己評価) 各自の努力や実績を把握し、資格の支援に向けた取り組みをしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 利用前訪問にて本人から直接話を聞き不安や求めていることを受け止めるようにしている。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 家族と話し合い不安や求めていることを把握し、入居後も定期的に話し合い、不安の軽減や要望に対応できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談時に本人と家族の話聞き、必要なサービスへつなぐよう努めている。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 本人や家族に何度か見学していただき、実際に利用者とは交流してもらうことでスムーズに溶け込めるようにしている。 (外部評価) 利用者や家族に何度かホームを訪問してもらい、徐々に馴染みながら利用に至るよう取り組んでいる。将来的にはデイサービスを開設し、デイでの馴染みの関係からスムーズな入居に移行する支援を考えている。やむを得ず即利用になった場合は、家族とも協力し、今までの暮らし方に近づけるように環境面を整える支援を考えている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 雰囲気を大事にしており、利用者と時間を共に過ごせる工夫をしている。その中で喜怒哀楽を共にし笑いあり、涙ありの当たり前の生活を支援している。 (外部評価) 朝風呂を楽しむ贅沢ができた満足した顔、自宅泊をする時もホームに帰ってくるのが当たり前になっているような出かけ際の職員にかける言葉、当初は独りであるか家族の傍から離れなかった方が歩み寄って来てくれるようになる、など利用者の満足した笑顔やねぎらいの言葉は、日々の繰り返しの仕事の成果が見え難い場での職員の励みになっている。		
28		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族と小さな喜び、悲しみでも共有できるよう報告したりしている。その中でより良い関係を築いていけるよう取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 利用者と家族との関係性を理解し、個別に支援できるよう取り組んでいる。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 入居前まで行っていた美容室に行ったりしている。自宅に植木鉢をとりに行ったり、お墓参りに行ったりしている。馴染みの人が訪ねて来やすい様に配慮している。		現在、馴染みの人や場所をさらに明確にするためにアセスメントしている。
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 利用者同士の関係を理解し、関わりあえるよう支援している。		ユニット間の交流ができるように利用者を活かした支援をしている。
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 関わりを必要としている家族や利用者には支援をしているようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) センター方式を活用し、意向の把握などに努めている。 (外部評価) 利用者の生活歴や思いは、入居時の聞き取りやその後の利用者との日々の関わりの中で聞いたり、汲み取ったりして本人本位の暮らし方を支援している。さらに、センター方式を活用して思いや意向の把握に取り組み、その中で職員間の共通理解を図っている。また、4月に家族との個別面談を行い、情報を得よう計画している。		今後は、把握したことを活かしてケアにつなげていきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) センター方式を活用し、生活歴や馴染みの暮らし方などの把握に努めている。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 利用者一人ひとりについて現状を把握すると共に、職員が意見を出し合い、心身状態も考えながらケアに活かせるようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 利用者本位の介護計画になるようにアイデアを出し合い努力しているが、家族や関係者の意見の反映が少ない。 <hr/> (外部評価) 介護計画作成について、家族とは面会時や電話で意見や要望を聞き、計画に反映させている。原案作成は担当制で、それをもとにケア会議で他の職員の意見や気づきを話し合い、計画作成担当者がまとめ、利用者本位の具体性のある介護計画を作成している。もっと家族から意見や思いを掘り起こしたいと、話し易い雰囲気づくりに努めている。	※	家族や必要な関係者の意見やアイデアを取り入れ実感できるチームケアに取り組んでいきたい。
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 定期的に見直しを行っている。必要に応じて柔軟に新たな計画を作成していけるようにしている。 <hr/> (外部評価) 介護計画は3か月に一度見直している。介護計画についての評価は日々記録し、1か月毎に職員会で話し合っている。利用者に状況変化があれば、随時見直しを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別記録に気づきや工夫を書くようにしており、情報を共有することができている。		気づきは緑色のペンで書く、ケアプランは青色のペンで書くというふうにペンの色を変えることにより分かりやすく工夫している。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 本人や家族のその時々々の要望に応えられるよう、柔軟に対応できるようにしている。 (外部評価) 利用者や家族の経年変化に伴い、その暮らしを支えるための個別性のあるサービスが求められる時期にきていると理解している。墓参り、美容院、通院介助、早期退院に向けた医療機関との連携や訪問リハビリマッサージの紹介など、利用者や家族の要望により柔軟に対応している。時期が来ればデイサービスを地域に提供したいと考えている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 民生委員とは協力できているが、他の地域資源との積極的な協働はできていない。		ホームの方から働きかけ利用者が地域資源との関係ができるように支援していく。
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 現在他のサービスを利用している方はいないが、本人の意向に合わせて支援するようにしている。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 運営推進会議には地域包括支援センターの方に来ていただいております、地域包括支援センターが開催する地域ケアネットにも参加している。		今後は積極的な情報交換を行い関係の強化していきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 本人及び家族の意向にそえるように支援している。 (外部評価) 利用者や家族の希望に応じて、入居前からの医療機関や協力医療機関で受診している。毎週協力医療機関の往診があり、必要により主治医と連携し、適切な医療が受けられるようになっている。家族同行の通院時には利用者の現況を口頭や書面で伝え、医師に正確に情報提供できている。家族からの受診報告は看護ノートに記録され、全職員が情報を共有している。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 協力医療機関の医師と連携しており、相談したり、治療したりしている。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 看護師と相談しながら日々の健康チェックをしている。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 入院したときも安心して過ごせるように、介護サマリーと共に本人の性格や行動や要望を伝えるようにしている。病院にも定期的に顔を出し安心していただいている。早期退院に向けて病院関係者と話し合い調整している。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族やかかりつけ医と相談し方針を共有できるようにしている。 (外部評価) 重度化した場合や終末期のあり方についての方針は、入居時に利用者や家族に説明し、共通理解ができています。看取りは家族の協力支援の同意を前提条件の一つとしているが、まだ必要性が生じていないため、家族からの同意書の提出はない。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 本人や家族の意思を確認し、納得のいく終末期を送れるように検討していきたい。		
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 十分に話し合い、住み替えがダメージとならないよう対応していきたい。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) プライバシーや誇りを保てるように、言葉かけには注意している。また個人情報の取り扱いにも注意している。 (外部評価) 職員は、利用者を常に目上の方として接しており、自分の言い方がスピーチロックになっていないか等について職員間で確認し合っている。利用者の身体・精神状態に合わせた適切な言葉かけや対応に心がけている。記録は利用者の視線を背にして壁際の小机で取るなど、個人情報の取り扱いにも注意している。		
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 分りにくい場合も希望の表出をくみ取る努力をしている。納得した生活を送っていただくため自己決定の場面を作り、支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人ひとりのペースにあわせつつ、希望にそった支援をしている。 (外部評価) 利用者一人ひとりの入居前の生活のペースで過ごせるよう支援している。基本的な生活のリズムづくりに配慮しながらも、朝食は起床時間により自由にとる、好きな時に入浴する、散歩や買い物に行くなど利用者のその時の思いに柔軟に対応している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 個々の好みに合わせたおしゃれの支援をしている。理容・美容も本人の望む店に行けるようにしている。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事にかかわれるように支援している。食事を作ったり、後片付けを一緒にすることにより役割や楽しみを共有できている。 (外部評価) 野菜の皮むき、テーブル・食器拭き、配膳など、利用者の好みや力に応じて食事の準備・後片付けや食事を一緒にするようにしている。また、食堂でテレビを観たり、おしゃべりしながら食事ができるのを待つなど楽しみ方は各々である。菜園で季節の野菜を育て、収穫を喜び、旬の味も楽しんでいる。		
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 今までの嗜好が続けられるように、一人ひとりの状況にあわせ支援している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 一人ひとりの排泄のパターンをつかみ、気持ちよく排泄できるよう支援している。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 個々の好みや体調に合わせて入浴している。 (外部評価) 曜日や時間に決まりはなく、職員が声をかけ、利用者のその日の気分で決めているが、2日に1回は入浴してもらおうよう配慮している。身体状態によっては足浴やシャワー浴で対応している。利用者は特に朝風呂を好んでおり、全員入浴を楽しんでいる。入浴の時間は利用者と職員の楽しいおしゃべりの時間でもある。		
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 個々のリズムや体調に気をつけて、安心して休息したり眠れるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 生活歴や力を活かし役割、楽しみ事、気晴らしの支援をしている。 (外部評価) 開設当初から利用者と共に生活している職員も多く、利用者の理解も深く、各々の楽しみへの支援が自然と行なわれている。さらに、一人ひとりに合った楽しみや役割のある暮らしを見つけ、活力を引き出したいと考えている。まもなく開設満2年目になり、家族との関係もできてきている。新たに情報を把握する機会として、家族との個別面談を計画している。	※	もっと活かす力があるのに把握できてない所などがあると思うので、今後はもっと楽しみ役割などが増やせるようにしたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 何人かは本人が小額のお金を管理しており、買い物などで支払いをしたりしているが全員ではない。		今後は、本人がお金を扱うことの大切さを理解したうえで全員がお金を持てるように支援していきたい。
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ぎずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) なるべく全員が平等に外へ出られるようにはしているが、訴えの多い方が出る回数が増えてしまっている。 (外部評価) 利用者一人ひとりの希望に応じて散歩、買い物、喫茶店、寺参りなど戸外に出かけている。あまり出かけたがらない利用者が戸外に出る一步の場として、菜園やベランダの環境を整備し、外気に触れる機会を支援していきたいと考えている。また、地域とのつきあいが広がることで、利用者が戸外に出かける機会ができてくることを期待する。		やはり戸外に出たい希望は全員あるはずなので、全員が平等に外出できるように支援していきたい。
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 行事としては、遠くへ行ったりはしているが、一人ひとりの行ってみたい所への支援となると満足には出来ていない。	※	今後は、個別に行ってみたい所などを聞いて、利用者や家族も含めていけるように支援していきたい。
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	(自己評価) 個々の希望に合わせて、自由に手紙や電話が出来るよう支援している。		
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 誰が来ても居心地よく過ごせるように配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) どうということが拘束なのかということを話し合っている。心理的な拘束などもあるということを理解し支援するようにしている。		
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 居室・玄関の鍵はかけてないが、玄関の前のホールの戸は自動ロック式の鍵になっている。心理的拘束がないように工夫はしているが、今後考えていかなければならない。 (外部評価) ホームは新興住宅地にあり建設中の住宅もあるため、作業車の出入りが多く、安全のためユニットの出入り戸を施錠している。施錠していることで家族は安心感を持っている。調査時、心理的拘束がないように日常的に努めていることがうかがえる場面がみられた。地域住民との直接的なつきあいができることで、早い機会に鍵をかけないケアになることを期待する。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 日中は必ずリビングにスタッフがいるようにしているようにして、安全確保に努めている。夜間は時間毎に巡回して様子観察している。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 注意の必要な物品については、本人と話し合っどうするかを考えている。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 危険などを予測し、スタッフで話し合っ事故防止に取り組んでいる。		


自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 緊急時のマニュアルは作っている。定期的に事故発生時などの対応などを話し合っている。		全職員が同じ対応が出来るようにしていきたい。
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 消防訓練などは行っているが地震や水害などについてはまだまだ不十分である。 (外部評価) 避難訓練は年2回定期的に実施し、消防署とも連携体制がとれている。職員は訓練を繰り返すことで避難場所や誘導方法を確認できている。現在は地域との防災協力体制は確立していないが、地震や水害に対しての対策は地域との協働が不可欠であり、運営推進会議で地域の防災協定について議題にし、町内会長等と今後検討していくことにしている。	※	今後、地域の方とも協力できるような体制が執れるよう話し合っていきたい。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	(自己評価) 起こりうるリスクなどについては家族と話し合い、本人にとってリスクについての対応が抑圧感なく快適に過ごせるよう調整している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 毎朝バイタルチェックをし、異変などないか確認している。その際、変化や気付きなどあれば対応できるようにしている。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 利用者一人ひとりの服薬資料を作っており職員が確認できるようにしている。	※	今後、副作用などについて全職員が把握できるように勉強会をしていきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 便秘の方には腹部マッサージをしたり、水分を摂るようにしたりと便秘予防の対応をしている。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 利用者個々の能力に合わせた声かけ、見守り、介助をしている。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食の食事量のチェックをしている。体重も毎月1回測定しており体重の増減には気をつけている。 (外部評価) 医療上の配慮を要する利用者はおらず、水分量の確認は必要な人のみ行っている。食事量を記録し、適量を盛り付けることでほとんどの方が全量摂取できている。一食の構成は主食、主菜、汁物を含め副菜2～3品で、食材が重ならないよう配慮している。調査時、利用者が「年齢に合わせた食事ですいつも美味しい」と話してくれた。		
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 感染症に対するマニュアルを作成し実行している。インフルエンザの予防接種は利用者、職員共に行っている。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) まな板、包丁、布巾などは毎晩漂白し殺菌している。魚などの新鮮なものはその日のうちに調理するようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 玄関には季節の花を鉢に植えたりして、親しみやすい環境をつくるようにしている。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節感を出す壁飾りや写真などで居心地の良い空間をつくっている。また、利用者さんが書いた習字などの展示をしたりしている。 (外部評価) 共用空間は清潔で明るく、段差がなく、置かれた家具類で適度にスペースが確保され、移動が容易である。玄関ホールには家族や近所の方が持ち寄ったアートフラワーや絵画などが、リビングや廊下には季節の花や利用者が作った作品が適度に飾られ、居心地よく過ごせる共用空間になっている。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ソファやベンチ、コタツなどを設置しており、それぞれが思い思いに過ごせるようにしている。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室には本人の使い慣れたものや好みのものを自由におき居心地良く過ごせるよう支援している。 (外部評価) ホームで用意したベッド以外に整理ダンス、テレビ、鏡台、冷蔵庫、ソファなどの馴染みの家具、使い慣れた身の回り品や家族や利用者の手作りの品、写真などを思い思いに持ち込み、その人らしい居室になっている。ホットカーペットを敷きコタツでくつろぐ、窓辺で鉢花を育てるなどその人らしく過ごせている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 居室は1日1回は換気を行うようにしている。温度調節も利用者の状況に応じてこまめに行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 要所へ手すりをつけており、トイレ、廊下、浴槽などでも安全な生活が送れるよう配慮している。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 利用者一人ひとりの認識力を把握し環境づくりをしている。		
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 玄関にベンチを設置して日光浴ができるようにしている。畑などもつくっているが利用者が自由に出入れるようにはしていない。ベランダも有効に使えていない。	※	ベランダにベンチを置いたりして、もう少し環境を整え、利用者が楽しんで過ごせるように工夫していきたい。

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (自己評価) ③	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの ③ 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない 今の時点では思いや願い、暮らし方の意向をすべて掴んでいるとはいえない。今、センター方式を用いて把握するように努めているところである。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (自己評価) ③	① 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない 一緒に新聞を読んだり、広告を見たり、コーヒーを飲んだり、ゆったり過ごす時間をつくるように心掛けている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (自己評価) ③	1 ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない 一人ひとりのペースを把握し、それぞれに合ったペースで暮らしていけるように支援しているが、全員が自分のペースかどうかは難しい。すべての面で利用者主体のペースとなるようにしていきたい。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (自己評価) ③	1 ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない 家族の方からグループホームに入居することで、生き生きした表情が見られるようになったと言われるが、現状には満足せずもっともっと利用者が輝いていけるのではないかと考え支援している。
92	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (自己評価) ③	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない 戸外へは出かけたりはしているが、必ずしも利用者が行きたいと言われた所へ行っているわけではないし、全員が行けているわけでもない。自分の意思で行きたいところへ出かけられるよう支援していきたい。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (自己評価) ③	① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない かかりつけの医師といつでも連絡を取れるようにしており不安なく過ごしていると思われる。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (自己評価) ③	1 ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない その時々で柔軟な対応を心掛けているが、要望に応じれないときもある。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく (自己評価) ③	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと ③ 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない 連絡などは取り合っているが、現状の説明などになることが多く、不安なことなどを積極的に聞く機会が少ない。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (自己評価) ③	1 ほぼ毎日のように ② 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない 友人や馴染みの方が数日に一度は訪ねて来られる。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ② 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	民生委員の方が運営推進会議以外の時でも足を運んでくださったりと少しずつ関係が広がっている。
98	職員は、生き活きと働けている	1 ほぼ全ての職員が (自己 ② 職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者と話をすることが楽しみな職員が多い。利用者と共に楽しめるような行事を計画するなどして、職員全員が生き活きと働けるようにいきたい。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) ③ 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	個々の要望や思いにそえるように支援しているが、共同生活ということで我慢している部分もあると思うので、少しずつ解消できるようにしていきたい。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての家族等が (自己 ② 家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	満足してもらえるようサービス提供させて頂いているが、家族にとっては満足できていない部分があるのではと思う。そこをもっと掘り起こし調整できるようにしていきたい。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

- ミニ菜園があり季節のものを育てている。庭で取れたものをすぐ食事に使ったりしているので新鮮。今年は巨大なさつまいもが採れ、皆で写真を撮りました。
- 玄関に手作りのベンチがあり、そこで天気の良い日は日光浴をしている。
- 利用者と職員の関係が安定しており、笑顔が随所に見られる。
- 昔の話を聞いたり、新聞について色んな話をしたりと、のんびりとした時間を大事にしている。
- 玄関や廊下など利用者と一生懸命掃除をしている。
- 毎年遠足ということで、遠出をしている。今年は、久万高原町に紅葉を見に行ったりした。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
 - 各自己評価項目について、「取り組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
 - 「取り組みの事実」は必ず記入すること。
- (注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名

グループホーム 我が家

(ユニット名)

ユニット2

記入者(管理者)

氏名

中山 多希史

評価完了日

平成 19 年 月 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) ホームの中でも地域の中でもその人らしく暮らしていけるように理念を全職員で作った。 (外部評価) 今までの運営理念の他に、全職員で「自分ならどういうケアをしてもらいたいか」を話し合い、五つのケア理念を新たに作っている。それはケアにあたっての具体的な行動目標であり心構えになっている。しかし、地域密着型サービスとしての役割を目指した内容は含まれていない。	※	ホームは利用者が地域の中で生活者としての暮らしを実感できるつきあいを目指しているため、利用者に関わるチームの共有を図るため、今ある理念を実践する中で、さらに地域密着型サービスとしての役割を目指した内容を盛り込むことを期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 理念に通じることがケアプランにもなっており、日々取り組んでいる。 (外部評価) 五つのケア理念は、利用者と職員の2年間の生活の中で、何を大切にしていくかを全職員で話し合い、平成19年10月に作ったものである。職員間で共有は図られており、心理を理解するケアサービスを共通の目標とし、日々のケアに取り組んでいる。		
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) 理念が浸透するように家族には説明し、地域の方には運営推進会議にて説明している。	※	運営推進会議では民生委員さんなどには説明はしているが、地域の人々にまでは説明できていないので、今後地域の方にも知ってもらえるように交流していきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 近所を散歩し挨拶などして、顔なじみになるようしている。玄関のベンチで日光浴する際も、近所の人を通ったら挨拶するように職員みんなで心掛けている。		今は挨拶での付き合いだけなので、今後は気軽に立ち寄ってもらったり日常的な付き合いができるように取り組んでいきたい。
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 老人会や行事等積極的に参加し地域の一員となれるようにしている。 (外部評価) 町内会に加入し、地域行事にも参加している。散歩の際、職員は積極的に挨拶するよう心がけ、地域との交流を大切にしている。また、交流の機会として囲碁や大正琴など利用者の趣味を通してのつきあい、運営推進会議を住民が行き慣れている公民館で開催することや利用者と共に見守り隊に参加するなど、民生委員や町内会長と相談しながら実施したいと考えている。	※	さらに地域活動などに積極的に参加し、利用者の皆さんが地域の一員だと実感できるように取り組んでいきたい。
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議などでもでているが地域の独居であるお年寄りとの交流を積極的にしてみようかとの意見が出ている。		まずは、地域の高齢者と話し合える環境を整えていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 職員全体で項目をチェックし、グループホームに求められているものを再確認している。 (外部評価) 自己評価は、全職員で話し合いの場を持ち、管理者がまとめている。職員は日々のケアを振り返ることができるので評価の意義を理解している。前回の改善については、ホーム便りの定期化や地域とのつきあいは取り組んできているが、研修会への参加などへの取り組みは進んでいない。	※	今後は評価を活かして、取り組みを具体的にしていきたい。 計画的かつ継続的に取り組むためにも改善計画シートを利用して改善計画を立て、職員間で共通理解として改善に向けて取り組むことを期待する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議では現状報告などになりがちではあるが、そこで出た意見も参考にさせていただいている。ボランティアの受入れをもっと積極的にしてはどうかなどの意見が出ている。 (外部評価) 会議は3か月に一回、ホームの現状、取り組み内容、外部評価結果や前回の会議での検討・懸案事項の経過などを報告し、話し合われている。改善に向けての前向きな取り組みにメンバーからも具体的な改善策の提案や地域の情報提供等がある。次回は「ホームが地域にどのように関わっていけるか」を話し合いたいと考えている。	※	地域のお年寄りで組織されている踊りや民謡などを受入れる予定で、そこからのつながりを大事にして発展させていこうと考えている。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 介護サービス事業者実務担当者連絡会や地域包括支援センターが主催する会などに参加している。 (外部評価) 地域包括支援センター主催の会などに参加する中で、市担当者と話しやすい関係づくりができてきている。また、運営推進会議以外でも民生委員がホームに訪問することが増えてきており、現状を知ってもらえる機会が多く持っている。		
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在制度利用者はいないが今後予測されるため、皆で学ぶ機会を持ちたい。		
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) どうということが虐待なのかということを話し合っている。心理的な虐待などもあるということを理解している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時に説明し、法改正による料金改正などのときにも詳しく説明し、同意を得ている。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 要望や意見は、管理者や職員が聞けるようにしており、できる限り実現するようにしている。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 暮らしぶりなどは、本人さんだよりということで先月請求書と一緒に送付する試みをしている。今後続けられるようにしていきたい。健康状態などは状況により随時連絡している。 (外部評価) 面会時に利用者の暮らしぶりを報告し、健康状態は受診時に口頭や書類にまとめて情報提供している。変化や問題が起きた時は電話で状況を報告し、連携を図っている。金銭管理は1か月に1回領収書を添えて収支報告している。先月試みに写真入りの「本人さんだより」を送付し、早速に家族より喜びの電話があったので、定着させたいと考えている。		
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族等と関係を築いていくことで意見、不満、苦情を管理者や職員に伝えやすくなるよう取り組んでいる。言いやすい雰囲気をつくるよう心掛けている。 (外部評価) 面会時に職員から声かけし、要望などを積極的に聞くように努めている。また、利用者や家族は運営推進会議でも意見や要望を言っており、その意見は運営に反映させている。重要事項説明書に、ホームの苦情相談窓口や公的窓口について電話番号を記載して紹介している。普段から積極的に意見をいただくという姿勢を持つことで「苦情」や「クレーム」はない。		今後、家族会の設置をし、家族同士が交流できる場も作ってきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月ミーティングを行い、意見などを聞く機会を設けそれを反映させるようにしている。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 外出などの要望にそえるために日中に勤務者が多くなるようにしている。		
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 利用者が馴染みの関係になれるよう異動などは必要最小限にしている。ユニット間の異動もユニット同士の交流を積極的にすることによって、どちらのユニットにも顔馴染の職員がいるように取り組んでいる。 (外部評価) 全職員が全利用者をケアしているという意識づくりと、利用者が全職員と顔なじみの関係を築くことで、夜勤帯や相互応援が必要な時に利用者にもスムーズな支援ができるように、ユニット間の職員の異動を必要に応じて行っている。また、それによりユニット間の利用者同士の個人的なつきあひも増えている。		
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 必要とおもわれる研修を受けられるよう取り組んでいるが、全職員が受けられているわけではない。 (外部評価) グループホーム連絡協議会や市主催の会に所属しており、管理者とリーダーは会議に参加しているが、職員は参加していない。管理者より研修会開催の情報提供があるが、研修会への参加は職員の自主性によるところが大きく、外部研修の受講率が高いとはいえない。	※	全職員が個々に必要な研修を受けられるよう取り組んでいきたい。 職員は、利用者の心理を理解した支援をしたいと自分の学ぶべき目標を明確にもっており、自己研鑽に前向きである。職員の経験や理解度に応じた研修機会を、業務に支障がないよう年間計画を立て、職員の育成について運営者側から働きかけることを期待する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 地域包括支援センターが開催している地域ケアネットなどを通じて交流するよう取り組んでいる。 (外部評価) 地域包括支援センターが開催している地域ケアネットに参加し、管理者やリーダーは近隣の他ホームと交流の機会を持っている。その中で、相互に大正琴を趣味にしている利用者があることから、合同発表会の開催が検討されている。これを契機に、同業者間の交流のあり方に広がりがあり、地域のサービス水準の向上が期待できる。		
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 職員のストレスなどを把握するよう努めている。また、環境を整えている。		
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 各自の努力や実績を把握し、資格の支援に向けた取り組みをしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 利用前訪問にて本人から直接話を聞き不安や求めていることを受け止めるようにしている。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 家族と話し合い不安や求めていることを把握し、入居後も定期的に話し合い、不安の軽減や要望に対応できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談時に本人と家族の話聞き、必要なサービスへつなぐよう努めている。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 本人や家族に何度か見学していただき、実際に利用者と交流してもらうことでスムーズに溶け込めるようにしている。 (外部評価) 利用者や家族に何度かホームを訪問してもらい、徐々に馴染みながら利用に至るよう取り組んでいる。将来的にはデイサービスを開設し、デイでの馴染みの関係からスムーズな入居に移行する支援を考えている。やむを得ず即利用になった場合は、家族とも協力し、今までの暮らし方に近づけるように環境面を整える支援を考えている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 雰囲気を大事にしており、利用者と時間を共に過ごせる工夫をしている。その中で喜怒哀楽を共にし笑いあり、涙ありの当たり前の生活を支援している。 (外部評価) 朝風呂を楽しみ贅沢ができた満足した顔、自宅泊をする時もホームに帰ってくるのが当たり前になっているような出かけ際の職員にかける言葉、当初は独りでいるか家族の傍から離れなかった方が歩み寄って来てくれるようになる、など利用者の満足した笑顔やねぎらいの言葉は、日々の繰り返しという仕事の成果が見え難い場での職員の励みになっている。		
28		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族と小さな喜び、悲しみでも共有できるよう報告したりしている。その中でより良い関係を築いていけるよう取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 利用者と家族との関係性を理解し、個別に支援できるよう取り組んでいる。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 入居前まで行っていた美容室に行ったりしている。自宅に植木鉢をとりに行ったり、お墓参りに行ったりしている。馴染みの人が訪ねて来やすい様に配慮している。		現在、馴染みの人や場所をさらに明確にするためにアセスメントしている。
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 利用者同士の関係を理解し、関わりあえるよう支援している。		ユニット間の交流ができるように利用者を活かした支援をしている。
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 関わりを必要としている家族や利用者には支援をしているようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) センター方式を活用し、意向の把握などに努めている。		今後は、把握したことを活かしてケアにつなげていきたい。
			(外部評価) 利用者の生活歴や思いは、入居時の聞き取りやその後の利用者との日々の関わりの中で聞いたり、汲み取ったりして本人本位の暮らし方を支援している。さらに、センター方式を活用して思いや意向の把握に取り組み、その中で職員間の共通理解を図っている。また、4月に家族との個別面談を行い、情報を得よう計画している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) センター方式を活用し、生活歴や馴染みの暮らし方などの把握に努めている。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 利用者一人ひとりについて現状を把握すると共に、職員が意見を出し合い、心身状態も考えながらケアに活かせるようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 利用者本位の介護計画になるようにアイデアを出し合い努力しているが、家族や関係者の意見の反映が少ない。 <hr/> (外部評価) 介護計画作成について、家族とは面会時や電話で意見や要望を聞き、計画に反映させている。原案作成は担当制で、それをもとにケア会議で他の職員の意見や気づきを話し合い、計画作成担当者がまとめ、利用者本位の具体性のある介護計画を作成している。もっと家族から意見や思いを掘り起こしたいと、話し易い雰囲気づくりに努めている。	※	家族や必要な関係者の意見やアイデアを取り入れ実感できるチームケアに取り組んでいきたい。
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 定期的に見直しを行っている。必要に応じて柔軟に新たな計画を作成していけるようにしている。 <hr/> (外部評価) 介護計画は3か月に一度見直している。介護計画についての評価は日々記録し、1か月毎に職員会で話し合っている。利用者に状況変化があれば、随時見直しを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別記録に気づきや工夫を書くようにしており、情報を共有することができている。		気づきは緑色のペンで書く、ケアプランは青色のペンで書くというふうにペンの色を変えることにより分かりやすく工夫している。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 本人や家族のその時々々の要望に応えられるよう、柔軟に対応できるようにしている。 (外部評価) 利用者や家族の経年変化に伴い、その暮らし方を支えるための個別性のあるサービスが求められる時期にきていると理解している。墓参り、美容院、通院介助、早期退院に向けた医療機関との連携や訪問リハビリマッサージの紹介など、利用者や家族の要望により柔軟に対応している。時期が来ればデイサービスを地域に提供したいと考えている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 民生委員とは協力ができているが、他の地域資源との積極的な協働はできていない。		ホームの方から働きかけ利用者が地域資源との関係ができるように支援していく。
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 現在他のサービスを利用している方はいないが、本人の意向に合わせて支援するようにしている。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 運営推進会議には地域包括支援センターの方に来ていただいております。地域包括支援センターが開催する地域ケアネットにも参加している。		今後は積極的な情報交換を行い関係の強化していきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 本人及び家族の意向にそえるように支援している。 (外部評価) 利用者や家族の希望に応じて、入居前からの医療機関や協力医療機関で受診している。毎週協力医療機関の往診があり、必要により主治医と連携し、適切な医療が受けられるようになっている。家族同行の通院時には利用者の現況を口頭や書面で伝え、医師に正確に情報提供できている。家族からの受診報告は看護ノートに記録され、全職員が情報を共有している。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 協力医療機関の医師と連携しており、相談したり、治療したりしている。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 看護師と相談しながら日々の健康チェックをしている。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 入院したときも安心して過ごせるように、介護サマリーと共に本人の性格や行動や要望を伝えるようにしている。病院にも定期的に顔を出し安心していただいている。早期退院に向けて病院関係者と話し合い調整している。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族やかかりつけ医と相談し方針を共有できるようにしている。 (外部評価) 重度化した場合や終末期のあり方についての方針は、入居時に利用者と家族に説明し、共通理解ができています。看取りは家族の協力支援の同意を前提条件の一つとしているが、まだ必要性が生じていないため、家族からの同意書の提出はない。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 本人や家族の意思を確認し、納得のいく終末期を送れるように検討していきたい。		
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 十分に話し合い、住み替えがダメージとならないよう対応していきたい。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) プライバシーや誇りを保てるように、言葉かけには注意している。また個人情報の取り扱いにも注意している。 (外部評価) 職員は、利用者を常に目上の方として接しており、自分の言い方がスピーチロックになっていないか等について職員間で確認し合っている。利用者の身体・精神状態に合わせた適切な言葉かけや対応に心がけている。記録は利用者の視線を背にして壁際の小机で取るなど、個人情報の取り扱いにも注意している。		
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 分かりにくい場合も希望の表出をくみ取る努力をしている。納得した生活を送っていただくため自己決定の場面を作り、支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人ひとりのペースにあわせつつ、希望にそった支援をしている。 (外部評価) 利用者一人ひとりの入居前の生活のペースで過ごせるよう支援している。基本的な生活のリズムづくりに配慮しながら、朝食は起床時間により自由にとる、好きな時に入浴する、散歩や買い物に行くなど利用者のその時の思いに柔軟に対応している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 個々の好みに合わせたおしゃれの支援をしている。理容・美容も本人の望む店に行けるようにしている。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事にかかわれるように支援している。食事を作ったり、後片付けを一緒にすることにより役割や楽しみを共有できている。 (外部評価) 野菜の皮むき、テーブル・食器拭き、配膳など、利用者の好みや力に応じて食事の準備・後片付けや食事を一緒にするようにしている。また、食堂でテレビを観たり、おしゃべりをしながら食事ができるのを待つなど楽しみ方は各々である。菜園で季節の野菜を育て、収穫を喜び、旬の味も楽しんでいる。		
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 今までの嗜好が続けられるように、一人ひとりの状況にあわせ支援している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 一人ひとりの排泄のパターンをつかみ、気持ちよく排泄できるよう支援している。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 個々の好みや体調に合わせて入浴している。 (外部評価) 曜日や時間に決まりはなく、職員が声をかけ、利用者のその日の気分で決めているが、2日に1回は入浴してもらおうよう配慮している。身体状態によっては足浴やシャワー浴で対応している。利用者は特に朝風呂を好んでおり、全員入浴を楽しんでいる。入浴の時間は利用者職員との楽しいおしゃべりの時間でもある。		
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 個々のリズムや体調に気をつけて、安心して休息したり眠れるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 生活歴や力を活かし役割、楽しみ事、気晴らしの支援をしている。 (外部評価) 開設当初から利用者と共に生活している職員も多く、利用者の理解も深く、各々の楽しみへの支援が自然と行なわれている。さらに、一人ひとりに合った楽しみや役割のある暮らし方を見つけ、活力を引き出したいと考えている。まもなく開設満2年目になり、家族との関係もできてきている。新たに情報を把握する機会として、家族との個別面談を計画している。	※	もっと活かす力があるのに把握できてない所などがあると思うので、今後はもっと楽しみ役割などが増やせるようにしたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 何人かは本人が小額のお金を管理しており、買い物などで支払いをしたりしているが全員ではない。		今後は、本人がお金を扱うことの大切さを理解したうえで全員がお金を持てるように支援していきたい。
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) なるべく全員が平等に外へ出られるようにはしているが、訴えの多い方が出る回数が多くなってしまっている。 (外部評価) 利用者一人ひとりの希望に応じて散歩、買い物、喫茶店、寺参りなど戸外に出かけている。あまり出かけたがらない利用者が戸外に出る一步の場として、菜園やベランダの環境を整備し、外気に触れる機会を支援していきたいと考えている。また、地域とのつきあいが広がることで、利用者が戸外に出かける機会ができてくることを期待する。		やはり戸外に出たい希望は全員あるはずなので、全員が平等に外出できるように支援していきたい。
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 行事としては、遠くへ行ったりはしているが、一人ひとりの行ってみたい所への支援となると満足には出来ていない。	※	今後は、個別に行ってみたい所などを聞いて、利用者や家族も含めていけるように支援していきたい。
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	(自己評価) 個々の希望に合わせて、自由に手紙や電話が出来るよう支援している。		
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 誰が来ても居心地よく過ごせるように配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) どうということが拘束なのかということを話し合っている。心理的な拘束などもあるということを理解し支援するようにしている。		
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 居室・玄関の鍵はかけてないが、玄関の前のホールの戸は自動ロック式の鍵になっている。心理的拘束がないように工夫はしているが、今後考えていかなければならない。 (外部評価) ホームは新興住宅地にあり建設中の住宅もあるため、作業車の出入りが多く、安全のためユニットの出入り戸を施錠している。施錠していることで家族は安心感を持っている。調査時、心理的拘束がないように日常的に努めていることがうかがえる場面がみられた。地域住民との直接的なつきあいができることで、早い機会に鍵をかけないケアになることを期待する。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 日中は必ずリビングにスタッフがいるようにしているようにして、安全確保に努めている。夜間は時間毎に巡回して様子観察している。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 注意の必要な物品については、本人と話し合っただうするかを考えている。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 危険などを予測し、スタッフで話し合っただう事故防止に取り組んでいる。		


自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 緊急時のマニュアルは作っている。定期的に事故発生時などの対応などを話し合っている。		全職員が同じ対応が出来るようにしていきたい。
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 消防訓練などは行っているが地震や水害などについてはまだまだ不十分である。 (外部評価) 避難訓練は年2回定期的に実施し、消防署とも連携体制がとれている。職員は訓練を繰り返すことで避難場所や誘導方法を確認できている。現在は地域との防災協力体制は確立していないが、地震や水害に対する対策は地域との協働が不可欠であり、運営推進会議で地域の防災協定について議題にし、町内会長等と今後検討していくことにしている。	※	今後、地域の方とも協力できるような体制が執れるよう話し合っていきたい。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	(自己評価) 起こりうるリスクなどについては家族と話し合い、本人にとってリスクについての対応が抑圧感なく快適に過ごせるよう調整している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 毎朝バイタルチェックをし、異変などないか確認している。その際、変化や気付きなどあれば対応できるようにしている。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 利用者一人ひとりの服薬資料を作っており職員が確認できるようにしている。	※	今後、副作用などについて全職員が把握できるように勉強会をしていきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 便秘の方には腹部マッサージをしたり、水分を摂るようにしたりと便秘予防の対応をしている。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 利用者個々の能力に合わせた声かけ、見守り、介助をしている。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食の食事量のチェックをしている。体重も毎月1回測定しており体重の増減には気をつけている。 (外部評価) 医療上の配慮を要する利用者はおらず、水分量の確認は必要な人のみ行っている。食事量を記録し、適量を盛り付けることでほとんどの方が全量摂取できている。一食の構成は主食、主菜、汁物を含め副菜2～3品で、食材が重ならないよう配慮している。調査時、利用者が「年齢に合わせた食事でいつも美味しい」と話してくれた。		
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 感染症に対するマニュアルを作成し実行している。インフルエンザの予防接種は利用者、職員共に行っている。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) まな板、包丁、布巾などは毎晩漂白し殺菌している。魚などの新鮮なものはその日のうちに調理するようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 玄関には季節の花を鉢に植えたりして、親しみやすい環境をつくるようにしている。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節感を出す壁飾りや写真などで居心地の良い空間をつくっている。また、利用者さんが書いた習字などの展示をしたりしている。 (外部評価) 共用空間は清潔で明るく、段差がなく、置かれた家具類で適度にスペースが確保され、移動が容易である。玄関ホールには家族や近所の方が持ち寄ったアートフラワーや絵画などが、リビングや廊下には季節の花や利用者が作った作品が適度に飾られ、居心地よく過ごせる共用空間になっている。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ソファやベンチ、コタツなどを設置しており、それぞれが思い思いに過ごせるようにしている。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室には本人の使い慣れたものや好みのものを自由におき居心地良く過ごせるよう支援している。 (外部評価) ホームで用意したベッド以外に整理ダンス、テレビ、鏡台、冷蔵庫、ソファなどの馴染みの家具、使い慣れた身の回り品や家族や利用者の手作り品、写真などを思い思いに持ち込み、その人らしい居室になっている。ホットカーペットを敷きコタツでくつろぐ、窓辺で鉢花を育てるなどその人らしく過ごせている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 居室は1日1回は換気を行うようにしている。温度調節も利用者の状況に応じてこまめに行うようにしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 要所へ手すりをつけており、トイレ、廊下、浴槽などでも安全な生活が送れるよう配慮している。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 利用者一人ひとりの認識力を把握し環境づくりをしている。		
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 玄関にベンチを設置して日光浴ができるようにしている。畑などもつくっているが利用者が自由に出入れるようにはしていない。ベランダも有効に使えていない。	※	ベランダにベンチを置いたりして、もう少し環境を整え、利用者が楽しんで過ごせるように工夫していきたい。

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目		
項 目	取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	(自己評価) 1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの ③ 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない 今の時点では思いや願い、暮らし方の意向をすべて掴んでいるとはいえない。今、センター方式を用いて把握するように努めているところである。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	(自己評価) ① 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない 一緒に新聞を読んだり、広告を見たり、コーヒーを飲んだり、ゆったり過ごす時間をつくるように心掛けている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	(自己評価) 1 ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない 一人ひとりのペースを把握し、それぞれに合ったペースで暮らしていけるように支援しているが、全員が自分のペースかどうかは難しい。すべての面で利用者主体のペースとなるようにしていきたい。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	(自己評価) 1 ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない 家族の方からグループホームに入居することで、生き生きした表情が見られるようになったと言われるが、現状には満足せずもっともっと利用者が輝いていけるのではないかと考え支援している。
92	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている	(自己評価) 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない 戸外へは出かけたりはしているが、必ずしも利用者が行きたいと言われた所へ行っているわけではないし、全員が行けているわけでもない。自分の意思で行きたいところへ出かけられるよう支援していきたい。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	(自己評価) ① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない かかりつけの医師といつでも連絡を取れるようにしており不安なく過ごしていると思われる。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	(自己評価) 1 ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない その時々で柔軟な対応を心掛けているが、要望に応じれないときもある。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく	(自己評価) 1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと ③ 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない 連絡などは取り合っているが、現状の説明などになることが多く、不安なことなどを積極的に聞く機会が少ない。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	(自己評価) 1 ほぼ毎日のように ② 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない 友人や馴染みの方が数日に一度は訪ねて来られる。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ② 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	民生委員の方が運営推進会議以外の時でも足を運んでくださったりと少しずつ関係が広がっている。
98	職員は、生き活きと働いている	1 ほぼ全ての職員が (自己 ② 職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者と話をすることが楽しみな職員が多い。利用者と共に楽しめるような行事を計画するなどして、職員全員が生き活きと働けるようにいきたい。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) ③ 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	個々の要望や思いにそえるように支援しているが、共同生活ということで我慢している部分もあると思うので、少しずつ解消できるようにしていきたい。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての家族等が (自己 ② 家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	満足してもらえるようサービス提供させて頂いているが、家族にとっては満足できていない部分があるのではと思う。そこをもっと掘り起こし調整できるようにしていきたい。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

- ミニ菜園があり季節のものを育てている。庭で取れたものをすぐ食事に使ったりしているので新鮮。今年は巨大なさつまいもが採れ、皆で写真を撮りました。
- 玄関に手作りのベンチがあり、そこで天気の良い日は日光浴をしている。
- 利用者と職員の関係が安定しており、笑顔が随所に見られる。
- 昔の話を聞いたり、新聞について色んな話をしたりと、のんびりとした時間を大事にしている。
- 玄関や廊下など利用者と一生懸命掃除をしている。
- 毎年遠足ということで、遠出をしている。今年は、久万高原町に紅葉を見に行ったりした。